

ひよし 日吉ダム最大流入時に約98%を貯留、ダム下流の河川水位を低減

淀川水系桂川の水資源機構日吉ダム（南丹市日吉町）流域では、台風11号の降雨により、8月8日12時から11日0時までの総雨量が298mm（ダム流域平均雨量）を記録しました。

この降雨により、ダムへの最大流入量は、毎秒913立方メートルとなりました。

この洪水に対して、日吉ダムでは通常の防災操作以上に貯留する操作を実施し、最大流入時に約98%（毎秒約900立方メートル）の水をダムに貯留して、ダム下流の河川水位の低減に努めました。

※防災操作：大雨により、ダムに流れ込む水の一部をダムに一時的にため込んで、ダムから下流に流す量を減らし、下流の川の水位を低減させる操作。

※今回の発表は速報値であり、今後の精査により数値等が変わることがあります。

平成26年8月12日

国土交通省 近畿地方整備局 淀川ダム統合管理事務所

独立行政法人 水資源機構 日吉ダム管理所

発表記者クラブ

京都府政記者室
南丹市政記者クラブ

問い合わせ先

独立行政法人 水資源機構 日吉ダム管理所 所長代理 あらい 新井
住 所：京都府南丹市日吉町中神子ヶ谷68
電 話：0771（72）-0171（代表）

国土交通省 近畿地方整備局 淀川ダム統合管理事務所 副所長 しんかわ 新川
住 所：大阪府枚方市山田池北町10番1号
電 話：072（856）-3131（代表）

ひよし 日吉ダム最大流入時に約98%を貯留、ダム下流の河川水位を低減

台風11号により、淀川水系桂川の日吉ダム（南丹市日吉町）流域では、8月10日12時から13時までの1時間の雨量が最大36mmを記録し、降り始めの8月8日12時から11日0時までの総雨量は298mmに達しました。この総雨量は、昨年9月の台風18号に次いで、平成10年4月の管理開始以降第2番目の総雨量となりました。

この降雨により、ダム流入量が増加し、9日12時22分には洪水量（毎秒150立方メートル）に達したため、防災操作を開始しました。

9日23時18分には、ダム流入量が洪水量（毎秒150立方メートル）を下回りましたが、その後の降雨により再びダム流入量が増加し、10日9時13分には洪水量（毎秒150立方メートル）に達しました。

10日11時46分には、ダム下流の河川水位の上昇を低減させるため、国土交通省淀川ダム統合管理事務所長の指示により、ダム流下量を通常の防災操作である毎秒150立方メートルから、毎秒60立方メートルに減量する操作を開始しました。

10日15時09分には、降雨及びダム流入量の状況から、ダム流下量をさらに減量してもダムに貯留可能であることを確認し、同じく淀川ダム統合管理事務所長の指示により、ダム下流の河川水位が少しでも早く低減するよう、ダム流下量を毎秒60立方メートルから、毎秒15立方メートルに減量する操作を開始しました。

10日16時03分には、流入量が最大（毎秒913立方メートル）となり、流入量の約98%（毎秒約900立方メートル）をダムに貯留しました。この流入量は、昨年9月の台風18号に次いで、平成10年4月の管理開始以降第2番目の流入量となりました。

防災操作の概要

	流域平均総雨量	ダムへの流入量が最大となった時刻	同時刻におけるダムへの流入量	同時刻におけるダム流下量	同時刻におけるダム貯留量
日吉ダム	298mm	平成26年8月10日 16時03分	毎秒913m ³	毎秒14m ³	毎秒899m ³

今回の防災操作により、ダム下流の保津橋地点（ほづばし 亀岡市保津町下中島地先）の河川水位を、最大約0.9メートル低減したものと推定され、はん濫危険水位（4.50m）を上回る時間が約4時間短縮されたと想定されます。

保津橋地点の水位低減効果

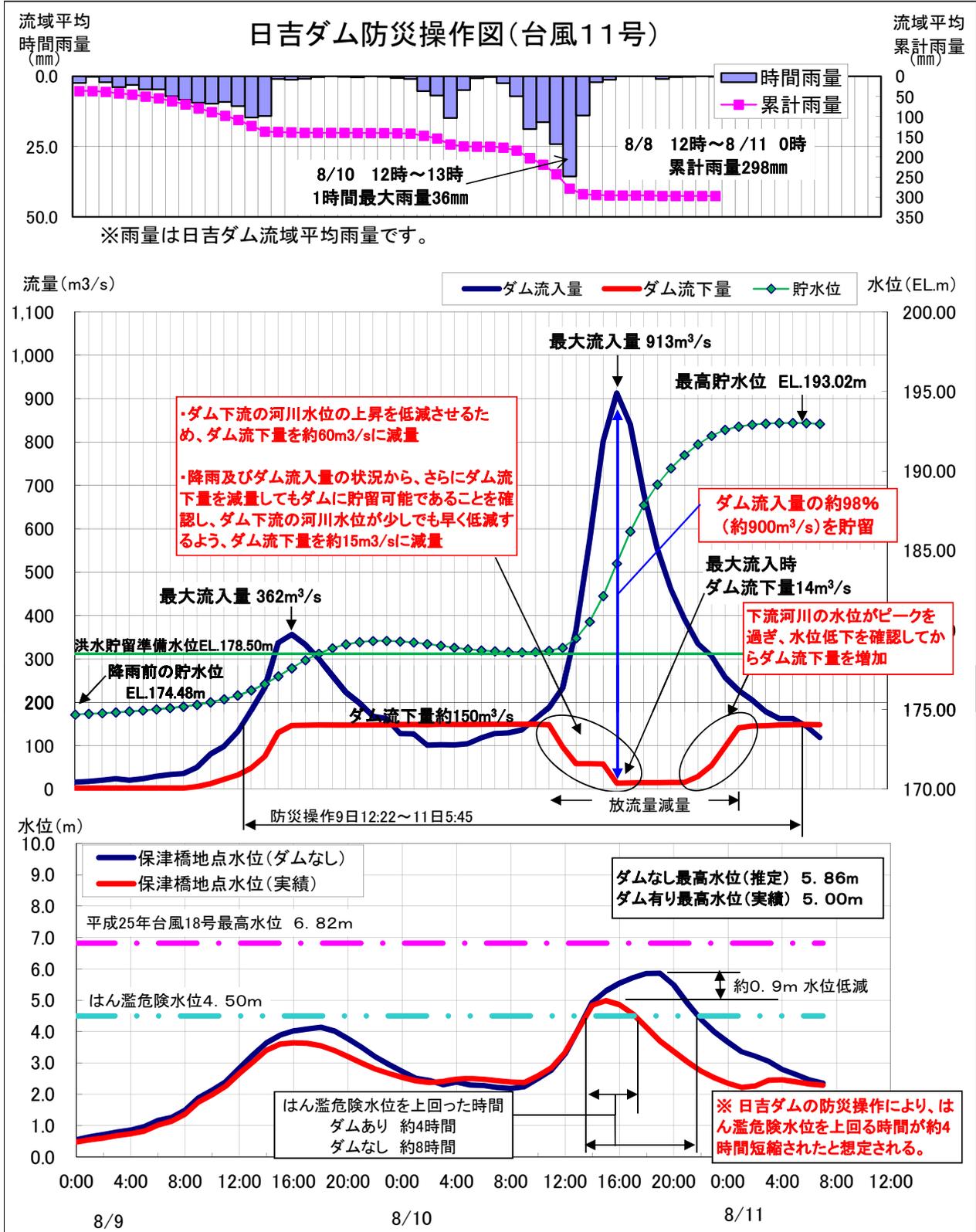
保津橋地点の河川水位が最高水位となった時刻	同時刻における保津橋地点の河川水位	ダムがなかった場合の同地点の最高水位	水位低減効果
平成26年8月10日 14時50分	5.00m	5.86m	0.86m

河川水位は、高い状態が続いています。十分ご注意ください。

位置図



・日吉ダム最大流入時に約98%を貯留、ダム下流の河川水位を低減



管理開始(平成10年4月)以降の主な出水の記録

順位	出水名	総雨量 [mm]	最大流入量 [m ³ /s]	ダム流出量 (最大) [m ³ /s]	最大流入時の貯留量 [m ³ /s]
1	平成25年 9月 台風18号	345	1,694	504	1,546
2	平成26年 8月 台風11号	298	913	150	900
3	平成16年10月 台風23号	238	856	150	708

※ 管理開始(平成10年4月)以降の出水で、最大流入量が大い方から3番目までを記載しています。

※ 数値等は速報値であり、今後の精査により変わることがあります。

日吉ダム最大流入時に約98%を貯留、ダム下流の河川水位を低減

資料3

台風11号の降雨により桂川の水量が増大し、日吉ダム管理開始以来、平成25年台風18号に次いで第二位となる最大流入量（毎秒913立方メートル）を記録しました。日吉ダムでは、最大流入時に約98%の水をダムに貯留し、京セラドーム大阪19杯分（2,295万立方メートル）に相当する水をダムに貯め込みました。今回の防災操作により、ダム下流の保津橋地点（亀岡市保津町下中島地先）の河川水位を、最大約0.9メートル低減したものと推定されます。

最大流入時に約98%の水を貯留し、京セラドーム大阪[※]19杯分に相当する水をダムに貯め込み、ダム下流の河川水位の低減に努めました。（※京セラドーム大阪の容量を120万m³として算出）



ダム堤体上流面



洪水調節開始時貯水位EL.176.00m

（貯水位EL.174.48m：平成26年8月8日9時30分）

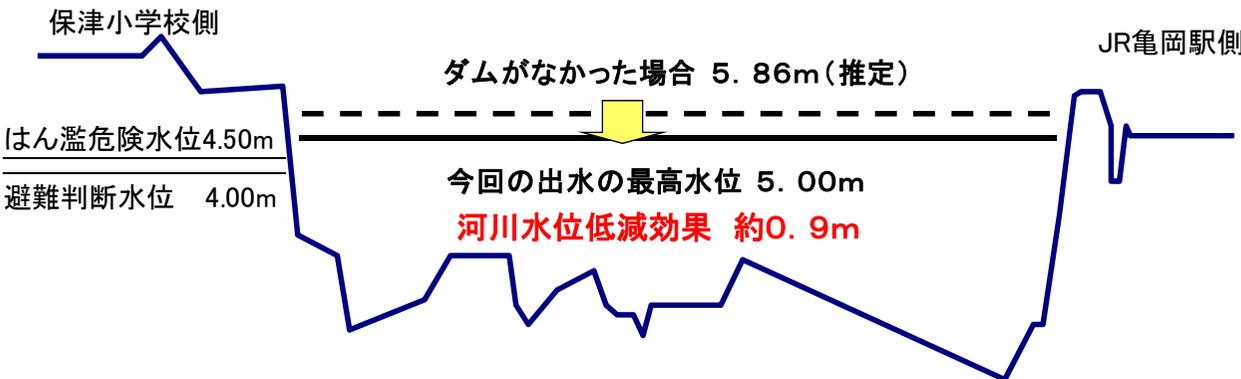


最高貯水位EL.193.02m

約17mのダム水位上昇

（貯水位EL.192.82m：平成26年8月11日9時00分）

保津橋地点（保津川下り乗船場付近）での水位低減効果



【訂正：平成26年8月13日】

京セラドーム大阪19杯分（2,295万立方メートル）

→ 京セラドーム大阪約22杯分（2,656万立方メートル）

※ 今回の発表は速報値であり、今後の精査により数値等が変わることがあります。